令和４年度の学校評価結果

前年度の重点目標 （課題）	１　スクール・ポリシーに位置付けた「本校における学び」の充実 ２　ＩＣＴ教育の推進 ３　人間教育の充実 ４　本校の魅力発信に係る取組の充実 ５　校務分掌のブロック化・グループ化による職員の協働体制の促進		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 （教務部）	・学力向上を図る	・学習意欲を高めるような授業に心がける。	・タブレットやロイロノートを使用した新たな学習方法の導入により生徒自身が主体的に取り組め、かつその活動内容が把握できるような授業が増えてきた。今後はその方法がどれだけ効果があるかの検証も踏まえ授業計画を進めていきたい。
		・家庭での学習習慣を身につけさせる。	・実態調査から見る家庭学習の時間は例年に比べ減少している。特に土日における家庭学習が減少しているため、教科だけでなく学年と連携を図りながら対策を考えたい。
		・基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。	・一部の科目については勉強会を実施するなど、基礎学力が不足している生徒に対し学習補填を試みている。発展的な学習については教科の補習頼みとなっておりまだまだ十分とは言えない。
	・授業規律の徹底を図る	・授業を大切にさせる。	・内職やサボりなどは例年に比べて減ってはいるが、遅刻や欠席が増えている傾向もあり授業が十分に理解できていない生徒も多い。授業を休むということに対しての抵抗感が下がっているようである。
		・学習環境を整える。	・机周りの整理や教室内の環境整備など常日頃から意識させる必要がある。
国際理解 （国際理解部）	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際感覚を高める	・メントーンガールズセカンダリーカレッジとの交流の継続	・相互訪問は実施せず。 ・１年生全クラスで手紙の交換、オンライン交流を実施した。 ・相互訪問の再開に向けて担当者と連絡を取っていく。
		・Global Frontier 研修の実施	・委託業者と連携し実施できた。積極的に参加する生徒が多く事後アンケートでも満足度は高かった。英語学習の動機づけ、異文化理解の良い機会となった。中村高校の特色である国際理解教育の１つとして次年度に向けても研修の充実を図りたい。
		・中村地球市民教室の実施	・対面での実施をした。 ・事前ＬＴでは、生徒主体の活動の場を設けた。事前に講師の出身国について予備知識を得させたり、今年度の共通テーマ「人権問題・いじめ問題」について考えさせたりし、全生徒に意識付けを図った。
		・生徒国際交流委員会の活性化	・積極的な生徒が多く見られた。 ・中村地球市民教室に向けて、ＬＴ運営や当日の動きについて指導した。事前ＬＴでは、各クラスの委員が講師の出身国についてのスライドを作った。
		・留学生の受け入れ	・インドより女子留学生を受け入れた。 ・留学生にＡＦＳからの指導が入ったり、ホストチェンジがあったりした。留学生活になじめない面があったが、ＡＦＳ担当者と連絡を取りその都度対応した。 ・インドについてのプレゼンテーションの機会をつくれたので、本校生徒にとって異文化に触れる機会となった。 ・生徒が主体となって交流する機会をつくろうとする動きがあったので、実現できるよう支援したい。
		・バンコクとのオンライン交流	・実施しなかった。
		・JICA 訪問の実施（国際理解コース）	・JICA 職員のプレゼンテーションや体験ゾーンの見学は、開発教育について生徒に考えさせる良い機会となった。生徒は前向きに参加できた。
		・ベトナム研修旅行の実施（国際理解コース）	・コロナの影響で中止となり、エンパワーメントプログラムを実施した。 ・次年度１、２年生での研修旅行を計画していく。
		・エンパワーメントプログラムの実施（国際理解コース）	・冬休みの３日間に実施した。 ・生徒の取り組む姿勢が非常に良く、実りある研修となった。
総務 （総務部）	・防災体制の整備	・防災委員会の活動を全校に向けて発信する。	・防災訓練や防災講話を通じて、身近なところにある危険を把握し、災害時、特に地震発生時にどう対処するか、防災委員が中心となって、全校生徒に発信することができた。
	・ＰＴＡと学校の相互理解	・ＰＴＡが学校活動に参加する機会を確保する。	・学校関係者団体の設立準備に向けて、ＰＴＡとの協働を試行的に進めることができた。また、創立 70 周年記念事業の運営や、名南地区ＰＴＡ研修会の運営など、例年以上に活発なＰＴＡ活動を行うことができた。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
図書 （図書部）	・学習情報センターとしての機能の充実	・図書資料の目録を整備する。	・生徒のよく利用する小型本を中心に167冊収集した。 ・貸出数は553冊、授業利用数は248回、自習で利用する生徒は例年より少なかった。
	・読書センターとしての機能の充実	・生徒の図書貸出利用増を図る。	・本を借りる生徒は特定の限られた生徒になってきている。図書委員による新着本の紹介など、周知に励むなどし、貸出数を増やしていきたい。
		・ビブリオバトルの充実を図る。	・アンケート結果からも概ね好評であると思われる。中には直前になって本を借りに図書館を訪問する生徒もいたので、さらに良いものにするために来年度も工夫をしていきたい。
生徒指導 （生徒指導部）	・規律正しい生活習慣の確立	・遅刻者を減少させる。	・生徒指導室に生徒指導部員が常駐することによってきめ細かな指導を行った。しかしながら、一部に安易に遅刻する生徒がおり、担任・家庭と連携して生活習慣を整えさせる必要がある。
		・身だしなみを向上させる。	・身だしなみの乱れに対して生徒指導部員だけでなく、多くの先生方の声掛けが必要であると感じている。生徒の意識の改善も必要であり、根気強く指導していきたい。
		・通学マナーの向上を図る。	・今年度より生徒生活委員会の０の日朝の交通安全指導を行い、生徒が主体的に交通安全に対する意識を高める指導を行っている。 ・地域の方からの苦情もあり、校外でのマナー向上を心掛ける指導を行っていく。
	・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する。	・アンケート後の担任との面談により、保護者とともに生徒に寄り添った指導を行っている。情報共有を常に行い、観察を続ける。
進路指導 （進路指導部）	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	・進路指導体制を充実させる。	・３年生の進路検討会は、生徒の個別検討については充実してきた。１・２年生の進路検討会については実現できていない。今後は学年会で情報交換の機会を作っていく。
		・キャリア教育を推進する。	・コロナ禍でインターンシップは、ほぼすべてが中止となった。今後は看護・幼稚園以外の職種への広がりが求められる。また「総合」の時間でのキャリア教育の充実も引き続き検討課題である。
		・補習、模擬試験を充実させる。	・コロナ禍で３年生の模擬試験の多くが校内実施となった。また１・２年生ともに実施された模擬試験はほぼ全ての生徒が参加した。
保健 （保健部）	・校内環境美化と生徒の意識高揚	・美化週間など強化期間を設け、校内美化、ごみの減量を呼びかける。	・３学期に美化週間を設定した。ＰＲ不足も感じたが、清掃委員は清掃状況をよく観察し、美化活動への積極的な意見も出された。 ・ごみ捨ての際にクラスごとのごみ袋使用は無駄が多い。分別はおおよそできているが、さらに減量を図りたい。
	・健康観察と教育相談への連携	・生徒の心身の問題点を早期発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。 ・必要な生徒に教育相談を結び付ける。	・健康観察表を毎月示し、日ごろからの生徒の様子を注意深く見ているが、教室へ行かず、直接相談室や保健室に入って過ごす生徒が増加している。 ・必要があると判断した生徒にはカウンセリングを促し、相談室や保健室からカウンセラーへつなぐことができた。 ・月１回のカウンセリングは毎回満員になるほどであるが、空きがあれば、必要な生徒に勧めている。 ・相談室２名の体制では、適切な対応が難しい状況になっている。
生徒会 （生徒会部）	・生徒会活動の充実	・議会、各委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。	・議会は伝達の場となっている。組織改革を行ない、各委員会を活性化する土台を作った。議員の活動に余裕がもたらされ今後活発になっていくと考える。執行部として学校生活アンケートを実施した。
		・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。	・体育祭を愛知県体育館で実施した。感染症対策、熱中症対策等に関しメリットが大きい。次年度も継続して外部施設で実施する。 ・文化祭は新型コロナウイルス対策としてクラス３分割制を実施した。次年度も安全を第一に考え、実施計画を慎重に検討する。 ・生徒の自主的な行事の実施に向けて組織改革を行った。
		・部活動の活性化を進める。	・新入生オリエンテーションでは部活動紹介動画を視聴させ、各部の説明を聞くブースを設けた。新入生の興味関心を高める方法を今後も検討する。 ・ＰＴＡの支援をいただき、必要な備品の購入を進めた。次年度も継続して実施する。
		・ボランティア活動への参加を進める。	・エコキャップ運動と募金活動を実施した。いずれも生徒への積極的な参加を促す方策の検討が必要である。これ以外にも活動の拡大をしていきたい。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
第１学年	・自ら学び深く考え主体的に行動する生徒の育成	・基本的な生活習慣を身につけさせる。あらゆる不調の兆候となる「遅刻」「早退」「欠席」に対して細やかな声掛けをすると共に、必要に応じて面談を行い、学校に対する意識がそれることのないよう生徒の様子を観察する。生徒指導部・教育相談部と連携を図る。 ・適切な身だしなみの徹底。 ・予習復習などの家庭学習を定着させ、それらによって自ら学習課題を見つけ、授業に対する自主的・意欲的な参加を促す。	・早出指導を受ける生徒に対し、今年度は各クラスの担任による素早い対応がなされ、家庭とも密に連携を取り迅速に対応することができた。しかし中には安易な遅刻がクラス内で波及し、１限始業時にいくつもの空席が見られるクラスもあった。生徒指導部、相談部そして各家庭と連携を取り、個々の生徒に寄り添いながら指導を継続したい。生徒の日々の身だしなみや化粧指導に関しては、課題が山積している。また女子の化粧もますます広がりを見せる中で、化粧指導の形骸化を防ぎ、各職員で一斉に指導していけるよう学年会で図りたい。併せて学年集会をできる限り開き、規律を遵守しようとする集団作りを今後も積極的に行っていく。
第２学年	・進路目標の明確化と学力向上	・進路目標を明確にし、目標を実現できるよう学習に主体的に取り組ませる。	・卒業生の講話や、リクルートと国語科の協力を得ながら志望動機について考えるなど、進路について具体的に考えさせる機会を作ることができた。
		・考査結果や模試結果を活用し、実力を客観的に把握させる。目標達成に向けての対策を考えさせ、実践につなげる。	・担任が生徒一人ひとりと面談をし、成績面について振り返りを行った。教科によっては補習を利用し、模試の解説などを行い、日常の学習の大切さについて意識付けを図った。
	・中心学年としての自覚の育成	・学校行事や部活動等に積極的に取り組み、中心となって活動できるよう、指導、助言する。	・リーダーや室長に積極的に役割を与え、リーダーシップの育成を図った。受動的でなく能動的に他を引っ張っていける態度の育成に向け、これからも取り組む必要がある。
		・下級生の模範となる行動をさせる。	・問題行動が多く、模範となる行動ができたとは言い難いが、生徒指導部と連携をし、粘り強く指導を続けた結果、徐々に雰囲気が落ち着いていった。
第３学年	・人間力の育成と主体性の実現	・積極的に学校行事等に取り組ませる。 ・規律ある生活態度で下級生の模範となるようにさせる。	・学校祭に積極的に取り組む生徒が多かった。一方で自己満足で終わってしまい、周囲に迷惑をかける生徒が散見された。事前指導を充実させる必要がある。 ・全体としては、学校生活では大きな問題なく、下級生の指標となれている。模範的な生徒もいる一方、課題のある生徒もいる。課題のある生徒をどこまで成長させるか確認をする必要がある。
	・進路実現	・進路実現に向け、妥協せず最後まで努力させる。 ・個々の希望に合わせた進路指導ができるように進路指導部と協力する。	・学校推薦型選抜、総合型選抜で早期に進路が決まる生徒が３分の１程度いる一方、年度末の入試に向けて努力を怠らない生徒が多く見られた。進路指導部、各担任の働きかけで一定の成果を得られている。継続的に指導を行うことが必要である。 ・進路検討会等を通じてタイムリーに情報を得て生徒に還元することができた。幅広い進路希望を持つ本校の生徒に対し、適切な指導を行うことができた。進路指導部、各担任との協力体制が不可欠である。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	・職員の健康管理	・勤務時間を適正に管理する。 ・業務量の平準化を図る。	・教職員の在校時間記録を衛生委員会に報告することにより、時間外労働の把握を行い、教職員の心身の健康に留意した。 ・運営委員会及び職員会議の実施回数を調整し、会議の精選を実施した。 ・校務分掌のブロック化及びグループ化により、協働して業務に当たる体制を推進した。 ・ＰＴＡや同窓会との連携を進め、一部の業務（校内模試の監督、交通安全指導、蔵書点検等）をＰＴＡに依頼した。
その他	・中村高校の特色づくり	・国際理解教育を充実させる。	・普通コースの生徒も対象とした「Global Frontier 研修」を新たに実施した。生徒の取組状況は良好であり、国際的視野の涵養につなげることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響でベトナム研修やオーストラリア姉妹校との交換留学は実施できなかったが、代替行事として、国内のベトナム人留学生との交流やオーストラリアとのオンライン交流を実施した。
総合評価		・学習指導においては、生徒にタブレット端末が配付され、授業における活用が広がりつつある。 ・生徒指導においては、全般的に落ち着いた環境は維持されているが、一部に身だしなみや生活習慣の乱れが見られる。また、不登校気味の生徒が増えつつある。 ・進路指導においては、３年ぶりに学部学科説明会を開催するなど、生徒の進路意識の育成に取り組んだ。	